

令和6年度 中学校国語科授業づくり研修会

全国学力・学習状況調査を活用した授業づくりについて



1

全国学力・学習状況調査の結果から見られる 本県の課題を踏まえた授業づくり

「読むこと」 → 説明的な文章を読む

「書くこと」 → 物語を創作する

※本資料は、「令和6年度 授業アイデア例」を参考にしています。

2

学習の流れ

- ①学習の見通しをもつ。
- ②要約について確認する。
- ③言語活動のイメージを共有する。
- ④学習計画を立てる。
- ⑤どのような人を対象とした「睡眠コラム」にするのかを決め、必要な情報に着目して要約する。
- ⑥要約文の内容を吟味している様子を把握し、元の文章の内容を正確に捉えて要約していない場合、要約文を吟味する視点を全体で共有する。
- ⑦学習を振り返る。

① 学習の見通しをもつ。



伝える相手を想定し、資料の内容を要約して伝える学習をします。基にする資料は、「健康づくりのための睡眠ガイド2023(こども版)」です。

学習指導要領における内容

(第1学年) 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと ウ

目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。《精査・解釈》

学習の系統性を意識しよう

中学校 第1学年（思考力、判断力、表現力等） C 読むこと

ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。

要約するとは、文章の全体又は部分を短くまとめることである。概略を理解するために文章全体の内容を短くまとめたり、情報を他者に伝えるために必要な部分を取り出してまとめたりするなど、その目的や必要に応じて内容や分量、方法が異なる。小学校第3学年及び第4学年の指導事項「ウ」を踏まえ、目的を明確にした上で要約に取り組むようにするとともに、要約したものが目的に沿っているかどうかを考え、必要な情報を正確に捉えて要約できるようにすることが重要である。

小学校 第3学年及び第4学年（思考力、判断力、表現力等） C 読むこと

ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。

要約するとは、文章全体の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短くまとめることである。文章の内容を端的に説明するといった要約する目的を意識して、内容の**中心となる語や文**を選んで、要約の分量などを考えて要約することが重要である。

5

授業アイデア例1

説明的な文章を読む

② 要約について確認する。



要約は、生活のどのような場面で役に立つと考えますか。

自分が文章の内容を理解するために、簡単な言葉で言い換えてまとめるときに必要だと思います。

長い文章を一通り読んでまとめるときに必要だと思います。例えば、本を紹介するときに、ストーリーを要約して伝えることがあります。

例えば、校外学習で学んできたことを伝えるときにも、短くまとめます。これも要約と言えるでしょうか。

6

③ **言語活動のイメージを共有する。**



要約する力は生活の様々な場面で役立つものですね。実は、保健委員会の担当の山田先生から、12月号の「〇〇な人のための睡眠コラム」を書いてほしいという依頼がありました。中学生の皆さんが、よりよい睡眠をとることができるよう、「〇〇な皆さんへ」といったように対象を決めてコラムを書いていきます。この部分に載せる文章なので、130字から200字程度にまとめてください。



④ **学習計画を立てる。**



これから資料の内容を要約してコラムを書くに当たって、どのように学習を進めていきたいのかを考え、端末を使って交流してみましよう。

「個人が考える「要約の進め方」の書き込みの例」

先生 先生 11月15日
要約の手順を教えてください！

コメント 20件

横井 横井 11月15日
1: 資料全体を読む。
2: まとめたことに関係していると思う段落を選ぶ。
3: 選んだ段落の中のいらぬ情報を削る。
4: 文章を整える。
5: まとめた文章を見直す。

竹内 竹内 11月15日
1: 見出しを確かめ、資料の必要な部分を中心に読む。
2: 必要な部分に線を引く。
3: 「2」で線を引いた部分の中で大切だと思う言葉などを丸で囲む。
4: 「3」で選んだ言葉をまとめて、どのように言い換えるか考える。
5: 文にまとめる。

早川 早川 11月15日
1: 資料を読む。
2: 興味深いところに線を引く。
3: 書き手が伝えたいことを考える。
4: キーワードだと思う言葉を抜き出す。
5: キーワードをつなげて文にまとめる。

ICTの効果的な活用
(例) 学習支援ソフトの掲示板機能・コメント機能を利用



自分が書き込んだ中で特に大事だと思うことや、友達の書き込みでやってみたいと思ったこと、また、書き込みを見て他に思い付いたことがあったら、出し合ってみましょう。

伝える対象を意識して必要な情報を探し、それを基に要約していきます。

そのためには、どのような人を対象とするか考える必要があると思います。

完成する前に、友達に要約文を読んでもらって意見を聞いてみたいです。

私も友達に読んでもらいたいのですが、同じような人を対象としてコラムを書いている人に見てもらいたいと思います。



それでは、書き込みや発言を参考にして、資料を要約してコラムにまとめるために、自分はどのように学習を進めていくのか考えてみましょう。計画を立てたら、自分なりの進め方で学習を進めていきましょう。

9

授業アイデア例1 説明的な文章を読む

⑤ どのような人を対象とした「睡眠コラム」にするのかを決め、必要な情報に着目して要約する。

[Aさんがまとめた要約文の例]

〈普段から運動をしている皆さんへ〉
進級に伴い課外活動が増え、生活習慣が大きく変化し、睡眠時間にも影響することがあります。睡眠には、心身の休養と、脳と身体を成長させる役割があり、睡眠は心身の健康にとって重要です。適度な運動はよい眠りにつながりますが、就寝前1時間以内の激しい運動はかえって睡眠の質を低下させるので、寝る直前の運動は控えましょう。

[Bさんがまとめた要約文の例]

〈デジタル機器をよく使う皆さんへ〉
デジタル機器の使用などが増えると、睡眠負債が蓄積しやすくなります。また、ディスプレイの視聴距離が近いとブルーライトを浴びやすく、寝付きや睡眠の質が悪化します。スクリーンタイムが長くなりすぎないようにし、デジタル機器は寝室には持ち込まず、電源を切って別の部屋に置いておきましょう。

[対象が異なる要約文を書いている生徒同士の交流の様子 の例]

Aさん

Bさんが書いた要約文と私が書いた要約文とでは、内容が全く違いますね。

Bさん

私は、「デジタル機器をよく使う人」を対象にコラムを書いています。だから、資料の「デジタル機器使用の回避」の部分から、機器の使い方を見直すポイントを伝えようと考えました。Aさんは、資料のこの部分については触れていませんね。

Aさん

そのとおりです。私は「普段から運動をしている人」を対象としたコラムを書いているので、「デジタル機器使用の回避」の部分は取り上げる必要がないと判断しました。「運動習慣の定着」の後半の部分の情報を取り上げてまとめました。

Bさん

伝える相手が違うと、必要な情報が違いますね。

デジタル機器使用の回避

- デジタル機器は寝室には持ち込まず、電源を切って、別の部屋に置いておきましょう。特に、寝そべりながらデジタル機器を使うと、ディスプレイの視聴距離が近くブルーライトを浴びやすくなるため、寝つきや睡眠の質の悪化につながります（⇒「良質な睡眠のための環境づくりについて」参照）。

運動習慣の定着

- 座りっぱなしの時間、特にスクリーンタイム（テレビ視聴やゲーム・スマホ利用など）が長くなりすぎないようにしましょう。小・中・高校生は1日当たり60分以上からだを動かし、スクリーンタイムは2時間以下にすることが推奨されています（⇒「運動、食事等の生活習慣と睡眠について」参照）。長時間の座位行動（及びスクリーンタイム）は肥満の増加や睡眠時間の減少と関連し、逆に、適度な運動は、良い眠りにつながります。運動は1日の中でどの時間に行っても睡眠の質を改善しますが、就寝前1時間以内の激しい運動はかえって睡眠の質を低下させる可能性がありますので、寝る直前の運動は控えたほうが良いでしょう。

11

授業アイデア例1

説明的な文章を読む

- ⑥ 要約文の内容を吟味している様子を把握し、元の文章の内容を正確に捉えて要約していない場合、要約文を吟味する視点を全体で共有する。



このあと、自分がまとめた要約文を見直して、よりよいものに仕上げます。どのような視点で見直すとよいかを考えるために、次に示す要約文を読んで、気になったことについて意見を交換しましょう。

[教師が用意した要約文の例]

〈睡眠不足ぎみの皆さんへ〉

思春期が始まる頃から夜寝る時刻が遅くなって、朝起きるのが難しくなる傾向が見られます。睡眠不足が続くと病気になるので、予防対策が重要です。寝そべりながらデジタル機器を使うと、寝付きや睡眠の質の悪化につながるため、デジタル機器を寝室に持ち込まないようにしましょう。

12

[教師が用意した要約文の例]

〈睡眠不足ぎみの皆さんへ〉

思春期が始まる頃から夜寝る時刻が遅くなって、朝起きるのが難しくなる傾向が見られます。睡眠不足が続くと病気になるので、予防対策が重要です。寝そべりながらデジタル機器を使うと、寝付きや睡眠の質の悪化につながるの、デジタル機器を寝室に持ち込まないようにしましょう。

睡眠の機能と睡眠不足による健康リスク

- 睡眠には、心身の休養と、脳と身体を成長させる役割があります。適切な睡眠時間を確保することは、こどもの心身の健康にとって重要です。睡眠時間が不足することによって肥満のリスクが高くなること、抑うつ傾向が強くなること、学業成績が低下すること、幸福感や生活の質（QOL）が低下することが報告されています（図1）。

夜ふかしが生じる原因

- 思春期が始まる頃から睡眠・覚醒リズムが後退し、睡眠の導入に関わるホルモン（メラトニン）の分泌開始時刻が遅れることで、夜寝る時刻が遅くなり、朝起きるのが難しくなる傾向がみられます。さらに、社会的な要因も夜ふかしに影響します。部活動や勉強、友人とのつきあい、デジタル機器の使用などで、夜遅くまで活動することが増えますが、朝は学校に遅刻しないよう起床する必要があるので睡眠不足になりやすく、睡眠負債が蓄積しやすくなります。学校のない休日は、睡眠負債を解消するために起床時刻を遅らせることにより、午前中の時間帯に日光を浴びることができず、睡眠・覚醒リズムは後退しやすくなります。思春期以降、社会人になるまでの時期は、もっとも夜ふかし、睡眠不足、休日の朝寝坊が生じやすくなるといえます。

13

[意見を交換している場面の例]

伝えたいことが、短くまとめられていてよいと思います。



この要約文は、資料の内容を正確に伝えているのでしょうか。

「睡眠不足が続くと病気になる」とありますが、資料に書かれているのは、健康リスクが高まるということです。「病気になる」とまでは書かれていません。



要約文が、元の資料が伝えていることと異なる内容になってはいけませんね。

要約文では、「思春期が始まる頃から夜寝る時刻が遅くなって、朝起きるのが難しくなる傾向が見られます。」となっていますが、夜寝る時刻が遅くなる原因には触れていませんね。

確かに情報が少し足りないように思います。資料の「夜ふかしが生じる原因」の一文目から情報を取り上げるとよいのではないのでしょうか。



そうですね。今、皆さんが確かめたように、「自分の言葉を用いて言い換えた部分は、資料が伝えている内容と違ってないか」、「取り上げる情報が十分か」などを視点に、自分がまとめた要約文を見直してみましよう。

14

⑦ 学習を振り返る。



今後の授業や生活に生かせるように、今回の学習を通して改めて分かったことをまとめます。振り返って気付いたことを挙げてみましょう。

今回は、コラムを書くために要約しましたが、例えば、自分が興味をもったインターネット記事を要約して紹介するなど、目的や状況が変われば文章の分量が変わるし、取り上げる情報も変わることが分かりました。

自分の言葉を使って言い換える場合は、自分の使った言葉で表現したことが、元の文章の内容で伝えたいことから変わってしまっていないか、しっかりと確認したいと思います。

「生徒の記述や発言をまとめた板書の例」

- ◎ 目的に応じて必要な情報に着目して要約する際の留意点
- ① 要約する目的に応じて情報を取り上げる。
 - ・ 要約は、文章全体を要約することだけではない。
 - ・ 要約する目的が変わると内容や分量も変わる。
- ② 要約した文章の内容が、基となる文章の内容と変わっていないか確かめる。
 - ・ 文章を短くしたことによって、情報が不足してしまうことがある。
 - ・ 自分の言葉を用いて言い換えた場合に、伝わるものが変わってしまうことがある。

学習の流れ

- ①学習内容と言語活動を確認し、学習の見通しを立てる。
- ②物語の構想を練る。
- ③表現の効果を考えながら、描写を工夫して物語の下書きを書く。
- ④書いた物語をグループで読み合い、描写の工夫について検討する。
- ⑤物語の下書きを推敲し、清書をする。
- ⑥学習を振り返る。

① 学習内容と言語活動を確認し、学習の見通しを立てる。

〈学習内容〉 表現の効果を考え、描写するなど、自分の考えが伝わる文章にするための工夫をする。

〈言語活動〉 体験をもとに、身近なものを登場人物にした物語を書く。

学習指導要領における内容

(第2学年) 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと ウ

根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、**表現の効果を考え、描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。**《考えの形成、記述》



体験を基に、身近なものを登場人物にした物語を創作します。次の[中学生が書いた物語]と、物語を書くための[構想メモ]を読んでみましょう。

[中学生が書いた物語]

[構想メモ]

1 あの日も僕は、君の部屋の本棚の隅でじっと待っていた。ほこりだらけになりながら。中学生になつてから、君はオンライン辞書を使うようになった。以前はよく、印を付けたら、書き込みをしたりしてくれたのに。君との距離は、ずいぶん遠くなってしまった。

2 インターネットだと、複数の辞書にアクセスできるから、タブレット端末だけを持ち運べばよい。単語さえ入力すれば、すぐに知りたいことを教えてくれるし、かさばらないし。君にとっては、とても便利なのだろう。僕なんて、このまま忘れられてしまうのかな。

3 そう考えていたとき、君は僕を手にとった。学校にタブレットを置いてきたのだろうか。久しぶりだったから、僕はびっくりし、君はほこりで大きくしゃやみをした。ほこりだらけの僕に顔をしかめたけれど、何度もページを繰っては、いろいろな言葉の意味を調べていた。当然、いつもよりは時間がかかっている。調べなければならぬ言葉だけでなく、近くにある言葉にも線を引き、意味を確認する君。意味調べが終わっても、君は僕をいつもの場所に戻さなかった。しばらくページを繰り、小学生のときに印を付けた言葉や書き込んだ言葉を読み返していた。君は満ち足りた表情をしていた。僕は自分が認められたような気がした。ちょっと近付いた気がした、君との距離が。

〈登場人物の設定〉
 ・「僕」紙の辞書。語り手。
 ・「君」紙の辞書の持ち主(中学生)。
 〈もとにする体験〉
 ・小学生のとき、紙の辞書を親に買ってもらった。
 ・使い始めた頃、紙の辞書の引き方が難しく困った。
 ・最近はおオンライン辞書ばかり使っている。
 ・紙の辞書を久しぶりに使った。
 〈物語を通して伝えたいこと〉
 ・紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさ。
 〈各場面で伝えたい「僕」の心情〉
 1 出番のない寂しさ。
 2 忘れられるかもしれない不安。
 3 久しぶりの出番で感じた喜び。



[中学生が書いた物語]では、[構想メモ]の〈各場面で伝えたい「僕」の心情〉を伝えるために、どのような表現の工夫をしていますか。

第1場面に、「君との距離は、ずいぶん遠くなってしまった。」という表現があります。「寂しい」という言葉は使っていませんが、「紙の辞書」の「出番のない寂しさ」が伝わってきます。

第3場面では、「ちょっと近付いた気がした、君との距離が。」と、倒置法が使われています。久しぶりの出番で感じた喜びが、ここに表れていると思います。また、第1場面の最後の部分と表現の仕方が似ているので、僕の心情の変化がよく伝わります。



そうですね。伝えたいことを伝えるために、様々な表現の工夫がされていることが分かりますね。物語の創作を通して、伝えたいことが効果的に伝わるように、描写を工夫して書くことに取り組んでみましょう。

授業アイデア例2 物語を創作する

② 物語の構想を練る。



[構想メモ]を参考にして、どのような物語にするか考えてみましょう。必要に応じて、友達と相談したり、アドバイスをもらったりしてもかまいません。

[交流している場面の例]

私は、最近、メールなどのやりとりでは感じない、直接話をするこのよさを感じたことがあったので、それが伝わるような物語にしたいと考えています。登場人物は、どうしようかな。

私は、サッカーボールを登場人物にして、次の大会で勝ちたい気持ちを伝える物語にしてみます。

21

授業アイデア例2 物語を創作する

③ 表現の効果を考えながら、描写を工夫して物語の下書きを書く。



伝えたいことを読み手に伝えるために、どのように描写を工夫すればよいのかを考えて、物語を書きましょう。

※ ④で描写の工夫について検討するので、ここでは自分なりに工夫した描写がある文章を書かせることを大切にする。

※ 工夫したところや、ねらいたい効果などをメモさせ、振り返りに活用できるようにする。

④ 書いた物語をグループで読み合い、描写の工夫について検討する。



書いた人は、自分が文章のどこを工夫したのかを言いましょう。読んだ人は、その工夫が自分にはどのように伝わったのかを返しましょう。改善のアイデアがあれば、出し合ってみましょう。

22

[交流している場面の例]

私は語り手をサッカーボールにしました。最後の一文を「僕は夕日に向かって転がりました。」としたのですが、ここからどのようなことが伝わりますか。

練習が終わって緊張から解放された感じと、満足感が伝わってきます。

あ、そうでしたか。私は「明日の大会で勝利する予感」を表現したかったのですが、伝わりにくかったようですね。

そうだったのですね。それなら、明るい色や光を取り入れた描写にしてみてもいいですか。

なるほど。「僕は、オレンジ色の夕日に向かって転がりました。」にしてみようと思います。

もっと工夫することができそうですね。例えば、「夕日の光に包まれていた」という表現を用いるのはどうですか。

確かに、「夕日の光に包まれていた」の方が、前向きな感じがします。「明日の大会で勝利する予感」がより伝わると思います。

23

授業アイデア例2 物語を創作する

⑤ 物語の下書きを推敲し、清書をする。



読み手の立場に立って、伝えたいことが効果的に伝わる表現になっているかを考え、文章を整えましょう。**文の成分の順序によっても**、伝わり方が違ってきますね。適切さや効果を考えて、よりよい表現になるように工夫しましょう。

(参考) ~「言葉の決まり」を使える知識に~

※ 語順などを変えたところは、なぜ変えたのかを書き留めさせ、振り返りに活用できるようにする。

Aさんは、納得のいく修正ができたようですね。物語のどの表現をどのような意図で修正したのか、紹介してください。



Aさん

下書きでは、「転がる僕は、オレンジ色の夕日の光に包まれていた」と書いていました。しかし、主語を変えて、「オレンジ色の光が、夕日に向かって転がる僕を包んでいた」とすることで、光が「僕」を包んでいる感じになって、勝利への予感がより効果的に表現できると考えました。

24

～「言葉の決まり」を使える知識に～

日本語は、**文の成分の順序**が比較的柔軟であるという特徴をもつ。このことを踏まえ、語順の違いによって表現がどのように変わってくるかを、様々な文型について考え、理解することができるよう指導することが必要。その際、**文の成分の順序や照応などの文の構成について着目**させることが重要。

学習指導要領における内容

(第2学年) 知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 才
単語の活用、助詞や助動詞などの働き、**文の成分の順序や照応など文の構成**について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めること。

25

～「言葉の決まり」を使える知識に～

[板書例]

○ 語順を変えると、伝わり方がどのように変わるか説明してみよう。

A 君との距離は、ずいぶん遠くなってしまった。

B ずいぶん君との距離は、遠くなってしまった。

C 君との距離は、遠くなくなってしまった、ずいぶん。

【説明の手がかり】

- ・ 伝わり方や効果
- ・ 文の成分の位置関係
- ・ 注目した文の成分

何が言いたいのかが分かりやすいのは、Aだと思います。主部である「君との距離は」がはじめに示されていて、語り手が「君」との関係について述べていることがはっきりしているからではないでしょうか。

Aが分かりやすいと感じるのは、「ずいぶん」という修飾語の位置にも関係しているのではないのでしょうか。

Bは、声に出して読むと面白い感じがします。文の最後まで読まないで「ずいぶん」という修飾語が何を詳しくしているか分からないからですね。Cは、「ずいぶん」の重みが増えますね。印象的な感じがします。

26

～「言葉の決まり」を使える知識に～



語順によって、読み手への伝わり方が違うことが分かりますね。自分の伝えたいことが、よりよく伝わる語順を検討してみましょう。

まとまった文章を書く活動の中で、実際に生徒が書いた文を取り上げ、語順を検討する学習活動などを行う。

その際、文の成分について確認した上で、

- ・語順を入れ替えることで伝わり方がどのように変わるか
- ・どの語順にすれば、自分の伝えたいことがよりよく表現できるのかなどを考え、説明し合う場面を設定することが効果的。

それまでに学んだ知識を活用して説明するように促すなど、文の成分の順序や照応に関する知識は、覚えるだけではなく使うものであることを実感できるようにし、次に自分で書いたり推敲したりするときの方法として、知識を自覚的に使えるように指導することが大切。

(知識及び技能)に示されている事項は、国語で理解したり表現したりする様々な場面の中で生きて働くものとして身に付けるために、(思考力、判断力、表現力等)に示されている事項の指導を通して指導することを基本としている。

(知識及び技能)と(思考力、判断力、表現力等)は、互いに関連し合いながら育成される必要がある。

27

授業アイデア例2 物語を創作する

⑥ 学習を振り返る。



物語を書く中で、どのような効果をねらって、どのような表現の工夫をしましたか。また表現をより効果的にするためには、どのようなことが大切だと思いましたか。振り返ってみましょう。

振り返りの観点の例

- ・これまでに学習したことで、この単元の学習に生かしたことはどのようなことか。
- ・効果的な表現の工夫について、どのようなことを学んだか。
- ・交流前と交流後で、どのように表現を変えたか。なぜ、そのように変えたのか。
- ・この学習で学んだことを、今後どのような場面で生かしたいか。

ポイント

学習後、評価問題として本調査問題に取り組みせ、学習したことが身に付いているかを確認する。※本調査は、4段落構成となっている。

28

学力向上のための授業改善



改善のポイント

- ①基礎・基本を定着させるため、**既習事項を活用する場面**を設定する。
- ②学びに対する**興味・関心を高める工夫**をする。(主体性を育む。)
 - 日常生活から題材を探す等、実生活と関連させる。
 - どの指導事項の定着に課題があるのかを明らかにして、指導計画等に反映させる。
 - ICTの活用等により、考えを共有させる。
 - 分かりやすい板書や学びの蓄積となるノートの指導の工夫をする。
- ③**言葉による見方・考え方**を意識した授業展開を考える。
- ④指導事項が身に付くような**効果的な言語活動**を設定する。
- ⑤**振り返り**を重視する。
 - めあてとの関連を意識した、書くことによる振り返りをさせる。
 - 自身の授業を振り返り、次の指導に生かす。
 - 「努力を要する」状況の生徒への手立てを考える。

29

学習の見通し・振り返りについて



【見通し】のポイント

「何を学ぶのか」「なぜ学ぶのか」「どのように学ぶのか」を、生徒が理解することが大切

- ※ **授業の始めには、めあてを提示し、問題解決への意欲を高めよう。**

【振り返り】のポイント

- ・自己評価(生徒自身の言葉で記述)
- ・「見通し」と対に

- ※ **授業(単元)の終わりには、めあてに対応した振り返りの時間を確保しよう。**
生徒の「振り返り」を吟味し、**教師自身の指導を振り返り、次時の指導に生かそう。** → **【指導と評価の一体化】**

学力向上に向けた授業力の改善・充実を図るためには、「見通し・振り返り」活動が大変有効である！

30